

# 池坊中央研修学院 総合特別科

## 各研究室・特修クラス 受講内容

各担当者の授業カリキュラム、研究内容をお読みの上、お申し込み下さい。

- ◎ 研究室は1年間で4期  
特修クラスは2年間で(平日コース8期)(土日コース10期)開講いたします。
- ◎ 研究室は1研究室につき最大3回の受講が可能です。(特修クラスは制限なし)
- ◎ 研究室については、誕生日が昭和32年1月1日以前の方は、決められた職位を取得していることが必要です。今年より年齢による必要な職位が変わりましたのでご注意ください。(特修クラスは年齢制限なし)※要項参照
- ◎ 応募者が20名以下の場合には開講いたしません。開講されなかった研究室・特修クラスに申し込まれた方は、発表後、別の研究室・特修クラスへの振替が可能です。

締切日 2018年1月16日(火)(当日消印有効)以後は、  
いかなる理由であっても受け付けできません。

### 古典立花 研究室



秋野 仁

先人の残した知恵と心と技を古書や絵図を通して学び、今日の日まぐるしく変化する時代世相に対応できる立花の研究を目指します。

- それぞれの時代や先人の作風を通して、立花の本質を学び、創作性を養います。
- 幹造りを通して、松の使い方を学び、ドリル等道具の使い方を習得します。
- 胴束等、小振りの作品にも挑戦し、狭い空間に生かせる立花を学びます。
- 二作目からは再利用できる花材は再利用し、花材を無駄なく生かします。
- 今日的な花材も使って、立て花にも挑戦し、現代感覚を養います。

立花の苦手な人や、立花をもっと勉強したい人等、経験の多少は問いません。憧れの古典立花と一緒に勉強しませんか。絶対に後悔はさせません。お待ちしております。

### 古典立花 研究室



豊田光政

かつて今だった時代に想いを馳せてみませんか。  
古書に学び、絵図の絵解きをし、時空を超えて伝わる教えを学び、  
現代へつながる立花の研究を目指します。

#### ◇技術の習得

作品制作を通じ、込み藁の作り方から、のこぎり・ドリルの使い方を学びます。  
幹造りのデモンストレーションを行います。  
各期の開講前に、必要な花器・道具・参考書籍等をお知らせします。

#### ◇研究内容

絵図をもとに作風の違いを見つめ、そこから時代背景などを研究。  
立花の変遷を学ぶ中で、砂物や胴束にも挑戦します。  
立て花からは、現代に通じる作品を研究します。

大作から小品まで、自身で作成できる研究室を目指します。

## 立花 研究室



中村福宏

- ・池坊立花における総合的研究

今日、立花は大きく二つに分かれました。立花正風体と立花新風体です。私の研究室では、立花正風体を基本として立花新風体へ進み、立花の総合的な考え方を研究していただきます。

- ・立花の変遷(成り立ちから今日まで)
- ・正風体の基本から応用へ
- ・新風体の基本的な考え方から、自己の新風体を極める
- ・各自の個性を尊重し、感性を磨く

## 立花 研究室



森部 隆

草木を立てることで、自分のなかに新しい自分を発見する。この喜びを原動力に、次世代へ夢や感動を与えられる立花を目指す研究室です。

- 心 池坊の美感、精神の根源を古書より学び、規矩性を再確認。正風体と新風体の違いを明確にし、各々の魅力を探る。
- 技 四季、花器、場所に応じ、立てる技術を修得。込藁の作り方から砂物、小品、大作まで多角的に実習。今までの知恵や経験を生かしつつ、新しく。
- 体 立花を内外にアピールできるよう「教えやすく習いやすい」理論と実習にも取り組む。自分なりのこだわりを見つけるのが、池坊人の醍醐味です。

一人では難しいことも、共に助け合う雰囲気大切に、じっくりと。花と人との出会いが、私達の人生をいきいきと輝かせてくれます。ともに夢咲かせましょう。

## 立花 研究室



小林春荘

立花は「松に始まり松に終わる」のではないのでしょうか。松は立花において最も重要な花材であり、多くの伝花のモチーフにもなっております。当研究室では今一度この松という素材に注目してみたいのです。

- そこでまず一作目は、可能な限り松を使用し、従来の和物を中心とした基本的な立花正風体を勉強します。
- 次の二作目は、一作目で使用した松などの花材を**再利用**し、今度は如何に現代感覚を取り入れ、今日的にアレンジしていくかを試行錯誤しながら挑戦していきます。ここでは花材も和物にこだわらず新しい世界を目指します。当研究室の特色をこのあたりで出せればと考えております。
- あとは一、二作目とは全く異なる現代生活にマッチした立花新風体と取り組んでいきます。

以上、五日間を基本的に三部構成で進めてまいります。

## 立花 研究室



西田 永

一輪の花、一枝一葉のはずむ姿に思いを寄せ、自然の美しい景色や心象をその様式に昇華する立花の心と技は、優れた先達のたゆまぬ研鑽と努力によって受け継がれ、多種多様なステージで時代に生きた幾多の人々の心を満たしてきました。

長い時を経て、立花は「たてはな」から「新風体」へと展開してきましたが立花様式がもつ柔軟な適応性（表現と構成）を考察するとともに、現代の多様な環境に対する更なる可能性を追求してみたいと思います。

### 研究内容(全期共通)

- ・ <基礎から応用> より高い完成度と創造性をめざすための基礎力の強化
- ・ <立花正風体> 伝統的美感と構成
- ・ <立花新風体> 立花の創造性と今日的環境への適応

## 立花 研究室



清水新一

「立花を立てる事が好きで、その時間が最も楽しい。」と感じているのは、私だけではないと思います。その上、立花を立てる本来の楽しさを見出し、満足いく花を立てようと努力する自分や仲間に出会えば最高です。

当研究室では、まず池坊の伝統的な美感を育てることを大切に考えています。その為に、花材の選定や構成などを考察することが重要と考えます。その上で、それらと現代の社会状況、花材事情との調和を模索していけば、古典では為し得ない、より幅広い新しい美の追求が出来るのではないかと考えます。

### <立花正風体>

構造を理解し、伝統的な美感を養う。より指導し易く、習い易い立花を模索する。

### <立花新風体>

現代の社会状況や花材事情を踏まえながら、現代人の感性を刺激する花の極限に迫る。

経験の多少に関わらず、一人ひとりのペースで無理のない歩みの中から、自分自身で納得いく花が立てられるように共に勉強していきましょう。

## 立花 研究室



井口寒来

立花は『立てる』といいます。この言葉には、『建立(神仏への祈願)』と、『自立(作品と作者)』と、『直立(水際と正真)』という意味があります。

当研究室では、下記のような総合的な内容により立花の本質を極め、未来志向で『品格』のある立花研究を行います。また、実技は楽しい雰囲気の中で自由に研究し、各自それぞれの能力を高めるよう指導します。

### (カリキュラム内容)

- (1) 立花の歴史的な研究(古典に学ぶ)
- (2) 立花正風体
  - ・習物七ヶ条の理解と現代的な活用
  - ・立華十九ヶ条の理解と活用
  - ・現代の花材と花器と環境に適応した新しい立花
- (3) 立花新風体(明日への展開)
  - ・置花の研究(長瓶、小型化、連瓶、二方面なども含む)
  - ・掛花の研究
  - ・釣花の研究

# 【 特 修 ク ラ ス 】 < 京 都 ・ 東 京 >

二年制平日コース(全8期)／二年制土日コース(全10期) ※京都土日コースは次年度募集

担当講師は、中央研修学院の特命教授・教授・准教授があたります。  
 下記に紹介している内容の他、講師の得意とする分野や季節、前回のカリキュラム等を考慮した上で、毎回独自のカリキュラムを用意します。カリキュラムは授業予定日の約1ヶ月前に郵送します。

特修クラスは毎期違う講師が授業を担当しますので、色々な先生から学ぶことができるのも特徴です。

<p>古典立花専攻</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典を訪ねて</li> <li>・ 幹造り立花の基本</li> <li>・ 専好の作風を学ぶ</li> <li>・ 専養の作風を学ぶ</li> <li>・ 砂物、など</li> </ul> <p>※ 特修古典立花専攻の申込みは総合特別科(古典立花研究室・立花研究室・特修立花専攻)を一度でも修了された方に限ります。</p>	
<p>立花専攻</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 立花正風体と立花新風体</li> <li>・ 立花新風体への糸口</li> <li>・ 習物七ヶ条を学ぶ</li> <li>・ 幹造り立花の基本</li> <li>・ 立花正風体(一色物)、など</li> </ul>	
<p>生花専攻</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生花の本質 生花表現における不易と流行</li> <li>・ 生花正風体(一種・二種・三種の表現)</li> <li>・ 生花五ヶ条 草木出生の据え方</li> <li>・ 変化形について(向掛・横掛)</li> <li>・ 七種伝を学ぶ</li> <li>・ 生花新風体、など</li> </ul>	
<p>自由花専攻</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 植物素材の見方、主材の決め方</li> <li>・ 自由花における発想と表現</li> <li>・ 環境(TPO)への適応(タペストリー、置き、掛け、釣り)</li> <li>・ 自由花の花器と形との関連性</li> <li>・ 自由花の花器と色彩との関連性、など</li> </ul>	

## 【 お知らせ 】

《 今年から総合特別科研究室の募集は年齢による必要な職位が変わります 》

誕生日が S32年1月1日以降の者 . . . . . 正教授3級以上

S28年1月1日～S31年12月31日の者 . . . 准華督以上

S25年1月1日～S27年12月31日の者 . . . 華督以上

**※S23年1月1日～S24年12月31日の者 . . . 副総華督以上**

年齢制限無し . . . . . 総華督以上



## 生花 研究室



中村福宏

- ・池坊生花における総合的研究

生花は池坊いけばなの中で、最も簡略された中に草木の命の響きを表現する花型です。少ない役枝を通して表現しますが、大切なことがたくさん集約されている花形です。

生花の持つ格調美をしっかりとつかみとり、今日の適応性を考え自己の感性を磨いていただく研究室です。

- ・生花の成り立ちから、今日までの過程
- ・生花における伝書に基づく研究
- ・生花正風体と新風体との相違点と表現方法への研究
- ・今日の環境、花材、花器、それぞれの適応性を考える

## 生花 研究室



井口寒来

生花の凛として水際から立ち伸びるシンプルで美しい草木の姿が、また生命の映発する輝きが、私達を感動させます。そして、引き算の美学といわれる「数少なきは心深し。」というギリギリの命の省略美も生花の魅力の一つです。

生花が大好きな皆さまと共に学んでいきたいと思えます。ぜひご参集ください。

### カリキュラム内容

- 生花正風体(一種生、二種生、三種生)
  - (1) 生花の歴史(専養、専純、専定、専明、専正)
  - (2) 伝花の理解と研究(生花五ヶ条、生花七種伝、他)
  - (3) 変化形(掛生、釣生、二重生などの草の花)(生花別伝)
  - (4) 交生、株分
  - (5) 三種生の現代的な活用
- 生花新風体(明日への展開)
  - (1) 今日的生花(花材、花器、環境への適応)
  - (2) 新しい株分、掛花、釣花の研究

## 生花 研究室



倉田克史

### 「温故知新」

先人の教えに学び、今、そして未来に向けて

「シンプルスタイル」＝「省略の美」の可能性を追求します。

今年度より生徒をお迎えする研究室です。

### 指針

- ・生への共感を持ち、草木に対峙する視点養育
- ・生活環境の中でのフレッシュな生かし方を模索
- ・生花の発生と変遷、その時代背景の考察
- ・伝書を紐解き、基本理念と技の確かな習得 (五ヶ条・七種伝・別伝)
- ・草木の姿を通して、自己の想いを表現

## 自由花 研究室



野田 学

池坊専永家元が示された「形より姿」の教えを念頭に、多様な環境にマッチする自由花を楽しむ研究室です。

作者や草木の個性を尊重する研究室として、自由花が大好きな方はもちろん、自由花が苦手な方も、フリースタイル（自由花）の世界を広げたい仲間を募ります。

自由な表現のための素材、構成、手法、等を研究室生と共に創意工夫していきたいと願っています。

### □ 研究内容

- ・池坊自由花カリキュラムの活用法
- ・置:花留の工夫、等
- ・掛:レリーフ、タペストリー、等
- ・釣:モバイル、等
- ・「形より姿をいける」ミニチュア自由花
- ・他

## 自由花 研究室



佐々木康人

### 「自由花で立花・生花にはない草木の魅力を表現する」

当研究室では、この専永宗匠のお言葉を土台にあらゆる自由花の可能性を追求します。ひと目で貴方の作品とわかる個性ある自由花を目指します。

#### 〈研究内容〉

#### 1.自由花の基本をマスターしよう

- ・草木美の捉え方（自然的・デザイン的）
- ・小品自由花を自由自在に（インテリアの花・花展の花）

#### 2.モチーフの捉え方をマスターしよう

- ・絵画や写真等からモチーフの捉え方を研究します
- ・多様な感情（喜怒哀楽）、雰囲気の表わし方を研究します

#### 3.未知なる自由花を目指して

- ・掛け、釣り等多様な環境。オシャレな花・カワイイ花 等  
私と一緒に、未来に向かう貴方の自由花を研究しましょう。